

2025（令和7）年さけます来遊状況（第2報：9/30 現在）

4 サケ年齢組成と体サイズ

国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所 さけます部門 資源増殖部

- 北海道の年齢別来遊数では、3年魚（2022年級）、4年魚（2021年級）および5年魚（2020年級）は前年および平年を下回る
- 北海道太平洋側では4年魚が平年の16%と1994（平成6）年以降で2番目に少ない
- 北海道日本海側では4年魚が平年の33%と1994（平成6）年以降で最も少ない
- 北海道のサケの平均重量は2.99kgで前年と同サイズであり、1994年以降で2番目に小さい

*1：平年とは、1994（平成6）～2024（令和6）年の平均値

・サケの年齢組成（北海道）

北海道の河川に回帰したサケの年齢査定の途中経過をもとに、9月30日現在における年齢別来遊数を推定したところ、年齢組成では、4年魚（2021年級）が全体の58%を占めて最も多く、次いで5年魚（2020年級）が37%、3年魚（2022年級）が3%となりました。前年同期との比較では、3年魚は63%、4年魚は54%、5年魚は58%と前年を下回っています（図1）。平年同期との比較では、3年魚は27%、4年魚は25%、5年魚は15%となっており、4年魚および5年魚は1994（平成6）年以降で最も少ない値となっています。

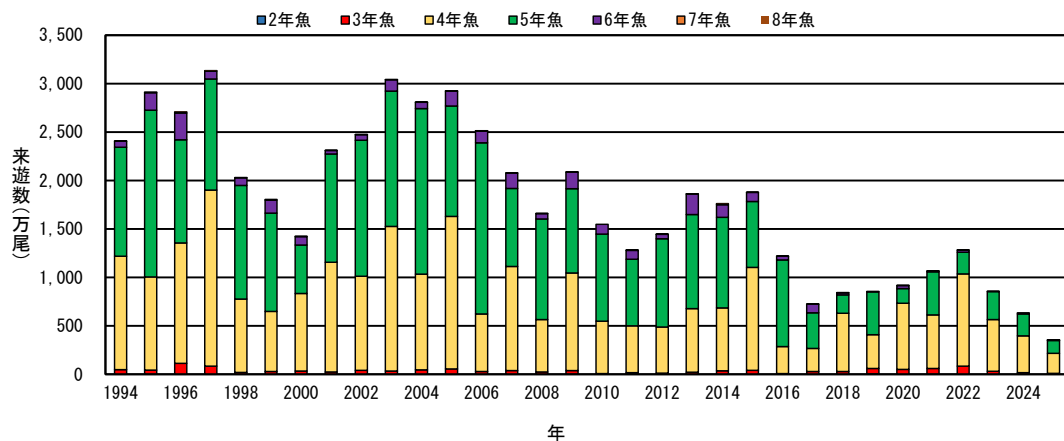


図1. 9月30日現在のサケ年齢別来遊数（北海道）.

年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2021年級を4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、1992～2021年級の平均の27%の水準となっています。また、今年の5年魚である2020年級の5年魚までの来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992～2020年級の平均の32%の水準となっています（図2）。

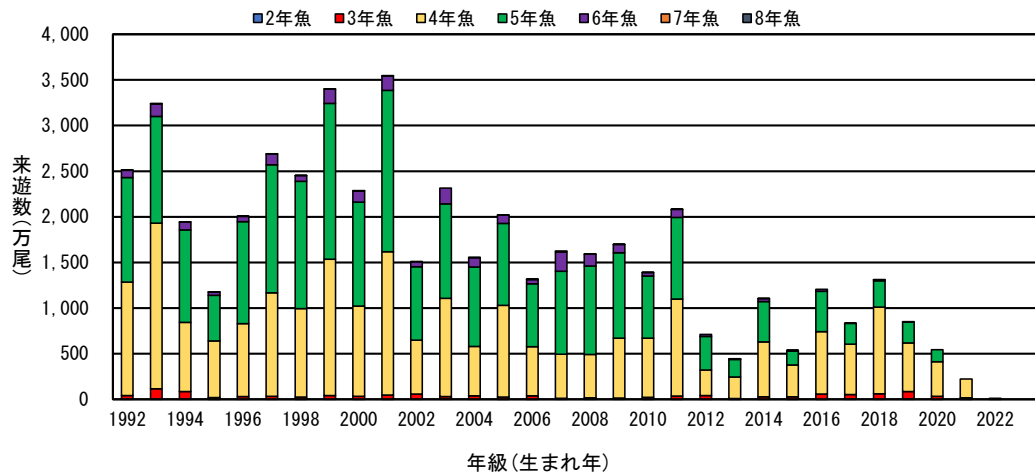


図 2. 9 月 30 日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（北海道）.

地域別にみると、北海道太平洋側（根室海区～えりも以西海区）では、4 年魚（2021 年級）が全体の 76%を占めて最も多く、次いで 5 年魚（2020 年級）が 18%、3 年魚（2022 年級）が 6%となっています。3 年魚の来遊数は前年同期の 66%、平年同期の 29%、4 年魚は前年同期の 93%、平年同期の 16%、5 年魚は前年同期の 32%、平年同期の 3%となっており、4 年魚は 1994（平成 6）年以降で 2 番目に少ない値、5 年魚が 1994（平成 6）年以降で最も少ない値となっています（図 3）。

北海道日本海側（オホーツク海区および日本海区）では、4 年魚（2021 年級）が全体の 53%を占めて最も多く、次いで 5 年魚（2020 年級）が 43%、3 年魚（2022 年級）が 2%となっています。3 年魚の来遊数は前年同期の 61%、平年同期の 25%、4 年魚は前年同期の 46%、平年同期の 33%、5 年魚は前年同期の 65%、平年同期の 25%となっており、4 年魚は 1994（平成 6）年以降で最も少ない値となっています（図 4）。

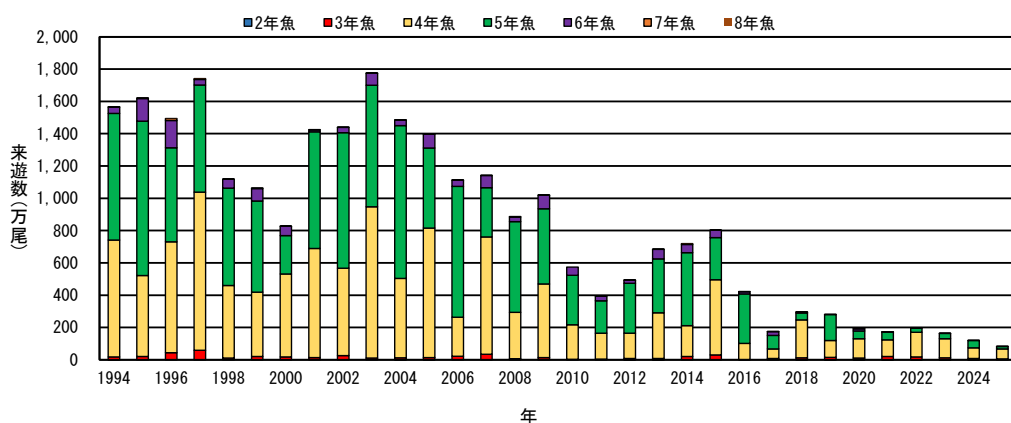


図 3. 9 月 30 日現在のサケ年齢別来遊数（北海道太平洋）.

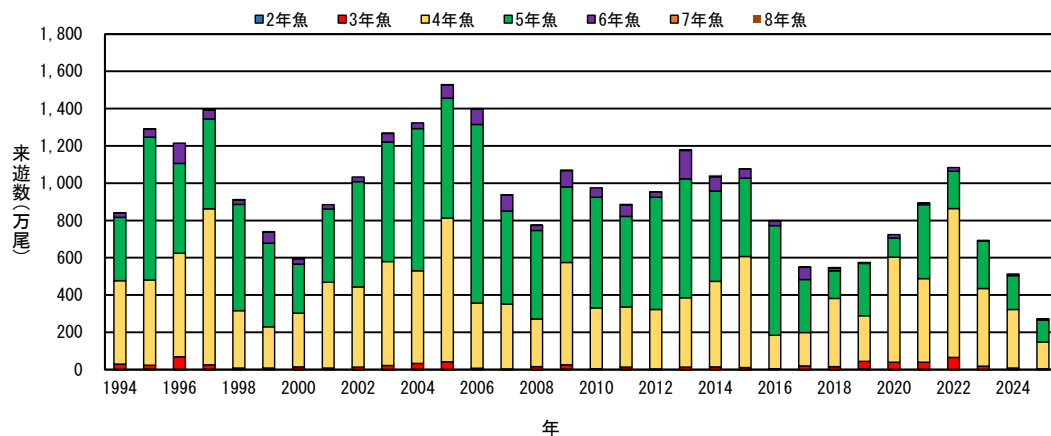


図 4. 9 月 30 日現在のサケ年齢別来遊数（北海道日本海）.

・サケの体サイズ

北海道における 9 月 30 日現在のサケ 1 尾当たりの平均重量（漁獲数と漁獲重量から算出）は 2.99kg であり、前年同期の平均重量 2.99kg と同サイズとなっています。

また、9 月 30 日現在の平均重量は 1994（平成 6）年以降で 2 番目に小さい値となっています（図 5）。

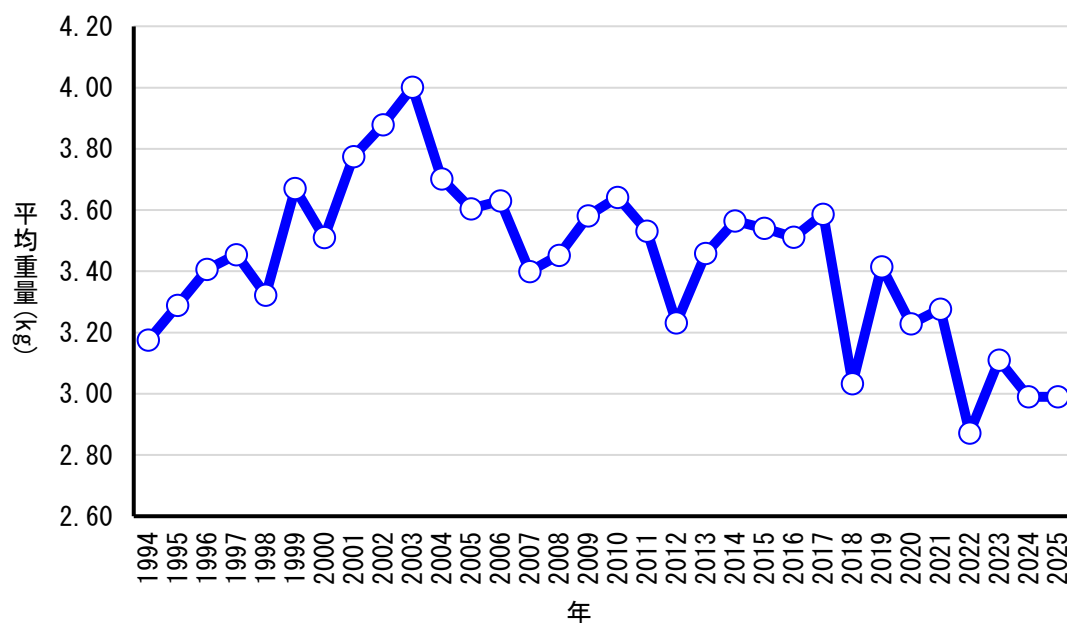


図 5. 9 月 30 日現在のサケ平均重量（北海道）.